2024 年の活動総括と 2025 年の活動方針（案）

北川かっぱの会 2025/03/29

■2024 年の活動総括

1.　北山公園関係

・（継続）市と連携を図りながら、いきもの調査（カエル類や昆虫類など）を実施する（厳密な意味での調査というよりは市民に関心を持ってもらうことに重点を置く）。実施時期や実施方法については市と相談しながら決定していく。　→〇

・（新規）川端会議の場で、「北山公園整備基本計画」の実施設計の内容について、生物多様性等の視点を盛り込んでいく。また、公園内の池や湿地での浅場創出について、NPO birth と連携しながら在来種の保全に取組んでいく。　→〇

2.　北川流域関係

・（継続）市と連携しながら、北川クリーンアップ作戦を実施していく。また、北川クリーンアップ作戦の垂れ幕を更新する。　→〇

・（継続）新たに定例川そうじ作業に携わる人の確保を目指す。　→△秋の北川クリーンアップではシルバ人材センターから 15 名の参加者があった

・（継続）宅部池の動向を注視（狭山公園生物多様性保全利用計画に基づく護岸の湿地化等の実施設計の内容など）していく。　→〇狭山三公園管理運営協議会の場でフォロー

3.　外来生物の防除関係

・（継続）新たに防除作業に携わる人の確保を目指す（指定管理者との連携も視野に入れる）　→×

・（継続）市と外来種防除についての協定を継続して締結し、北山公園内の外来種の捕獲を継続していく（4 月～10 月実施）　→〇　4 月～9 月に実施

・（継続）条件付き特定外来生物について周知していく。　→〇

・（継続）トレイルカメラの利用や足跡の確認などで実態を把握することにより、アライグマ等の防除対策を検討していく　→△　4 月にイノシシを撮影

・（継続）トウキョウダルマガエルを守ろう！キャンペーンを実施していく。　→×

4.　環境調査関係

・（継続）北山いきものクラブや土曜講座で捕獲した生き物の種類等について記録を残

す（記録を一元化していく）。　→○

・（新規）北山いきものクラブなどで、いきもの初心者向けではなく、少しレベルの高い子ども（中高生など）などを中心に幅広い年齢層向けの調査や記録方法を検討する。→×

・（継続）魚類調査や外来生物調査、水質調査、ゴミ調査については調査を継続するが、水質調査については調査負担の軽減化を検討する。　→△　各調査は実施したが、水質調査の負担の軽減化は道半ば

5.　子供向けのイベントの開催と環境学習関係

・（新規）北山いきものクラブについて、昆虫や両生類などの展示にも力を入れ。スタッフの養成にも力を入れることなどにより、内容の充実化をめざす。　→○

・（新規）北山わんぱく夏まつりについて、熱中症対策から９月の三連休での開催と名称を「北山わんぱくまつり」を変更する方向で検討する。また、さらに合理化を図っていくとともに若手スタッフの育成を図っていく。　→○　ただし、若手スタッフの育成は道半ば

・（新規）菖蒲まつりの展示について、両生類の展示を行うなどのより充実した内容に向けた取り組みを行うとともに、スタッフの養成にも力を入れていく。　→○　ただし、若手スタッフの育成は道半ば

・（継続）小学校の総合的学習への講師派遣については、可能な限り対応していく　→○

6.　関係機関との連携

・（継続）みどりの基本計画 2021 の進捗状況について、フォローしていく。　→○

・（継続）市に対して、生物多様性東村山戦略の具体化を働きかけるとともに、市と連携を図りながら、いきもの調査（カエル類や昆虫類など）を実施する。実施時期や実施方法については市と相談しながら決定していく（再掲）。　→△　ただし、生物多様性東村山戦略の具体化は進んでいない

・（継続）一般市民や、他団体（NPO 子育て支援ネットワークすずめなど）との連携について模索していく。　→○

・（継続）狭山丘陵パートナーズや八国山たいけんの里自然部会、柳瀬川水系水環境連絡会、トトロのふるさと基金などとはこれまで通り連携していく。　→○

7.　地域への情報発信関係、その他

・（新規）かっぱ通信をはじめとした会の情報発信媒体のあり方について、検討を行う。当面、HP のレンタルサーバーへの移行と HP のスマホ対応の方向性について検討する。併せて、インスタグラムの活用について検討する。　→△　ようやく検討を開始

・（新規）持続可能な活動を目指して、各活動の見直しを行っていくために意見交換会（茶話会、勉強会、…）など通して会員の意見を集約していく。　→△　ようやく検討を開始
・（継続）北山公園内「水と緑の掲示板」などでの情報発信はこれまで通り実施、かっぱ通信や FB、ブログについては、上記の議論を踏まえ必要な見直しを行っていく。→△　ようやく検討を開始
・（新規）子育て層を中心に新規会員になりそうな人への声がけを継続していくとともに、いきもの初心者向けではなく、少しレベルの高い子ども（中高生など）などを中心に幅広い年齢層向けのイベント（講座など）を検討する。　→×
・（新規）今秋の開催をめざし、かっぱ通信 150 号発行記念イベントの内容について検討し、実施する。　→×

■2024 年の活動記録　詳細については北川かっぱの会のホームページを参照

通年　・定例川そうじ（3-12 月）
　　・外来生物捕獲作業（4-9 月）
　　・かっぱ通信の編集・発行作業（3，6，8，10，12 月）
　　・「北川・八国山・北山公園のいきもの」編集と掲示（2，5，7，9，12 月）
　　・定例会、北山わんぱくまつり実行委員会
１月　・北山小土曜講座（野鳥観察）＋一般向け野鳥観察会
２月　・川端会議に参加
　　・生物多様性事業連絡会に参加
３月　・北川かっぱの会総会
４月　・北山いきものクラブを開催
　　・北山公園しょうちゃん池のハスの駆除作業
５月　・カエルの生息数調査と生きものガイドツアーの開催に協力
　　・北山いきものクラブを開催
　　・川端会議に参加
　　・北川クリーンアップ
　　・北山小土曜講座「ヤゴ救出作戦」を開催
６月　・身近な水環境の全国一斉調査に参加
　　・北山公園菖蒲まつりで北川水族館展示
　　・北山小土曜講座ホタル観察会
　　・北山小４年生の総合的学習（北川のゴミ拾い）

７月　・北山いきものクラブを開催
　　・市主催「北山公園いきものガイドツアー」を支援
　　・北山小４年生の総合的学習（魚とり）を支援
　　・北山小土曜講座昆虫採取
８月　・狭山三公園管理運営協議会
９月　・川端会議に参加
　　・北山わんぱくまつり
　　・北山小４年生の総合的学習（外来種）
10 月　・北山小土曜講座「トンボとりとヤゴいかだづくり」
　　・北山いきものクラブ
　　・外来生物慰霊祭
　　・NPO すずめとのコラボ企画「秋の里たいけん」
　　・北川クリーンアップ
12 月　・川でつながる発表会（新河岸川流域川づくり懇談会主催）

■2024 年決算

別添参照

■2025 年の活動方針（案）

アンダーライン部分は第１回及び第２回の「持続可能なかっぱの会の検討会」で出た意見を反映、３／２９総会では、アンダーライン部分と赤字部分について重点的に検討予定

1. 北川流域の環境保全活動を継続していく
   ① 北山わんぱくまつり、菖蒲まつりでの水族館展示、川そうじ、北山いきものクラブ、北山小土曜講座、北山小総合的学習、外来生物捕獲作業、カエルの生息数調査、身近な水環境の全国一斉調査、他団体とのコラボレーション企画などに継続して取組んでいく。
   ② かっぱ通信の発行やホームページ、SMS での情報発信、北川・八国山・北山公園のいきものの掲示などに継続して取組んでいく。
   ③ 川端会議や狭山三公園管理運営協議会への参加を通して北山公園や北川を含む北川流域の環境保全を目ざす。（以上、2025 年度の活動予定参照）

2. 持続可能な活動を目ざし、若い世代中心の活動に切り替えていく
   ① インスタグラムで生き物（魚類、鳥類、昆虫類、外来生物など）を中心とした情報発信を始めるなど、若い世代へのアピールを強化していく
   ② 会員になる可能性のある人について、組織として声がけを行い段階的に誘導していく　→イベントに来場→ミーティング（車座対話）→ボランティア体験→会員に登録、など
   ③ 北山小土曜講座の参加者（保護者）や北山いきものクラブへの来場者などへの声がけを強化し、かっぱの会からの情報発信ツール（イベント案内が中心）としてのLINE グループを立上げ、関心のありそうな参加者に加入してもらえるよう誘導する　→LINE アカウント；チャット機能の活用について要検討
   ④ 若い世代の会員が十分に活動することができるように、かっぱの会内部の情報共有や個人間の連携体制を図っていくことが出来るようにしていく
3. 持続可能な活動を目ざし、現在、高齢者中心で実施しているイベント等について実施内容を吟味していく
   ① 水質調査箇所の段階的な縮小、かっぱ通信発行部数の縮小などについて検討する
   ② 北川クリーンアップや外来種の捕獲活動など他の団体のボランティアと一緒に実施していくことも検討する
   ③ かっぱ通信の編集や印刷、配布方法を改善　→編集内容を複数の者で検討、印刷部数の削減、PDF ファイルでの配布先を増やすなど。なお、かっぱ通信の編集内容の再検討を含め若い世代に引き継いでいくことができるようにする
4. 持続可能な活動を目ざし、執行体制の変更と広報体制の強化を図っていく
   ① インスタグラム、ライン、ホームページ、ブログ、フェイスブック、かっぱ通信など各広報媒体の間での最適な広報を目ざして、広報ツール全体をコントロールする「広報担当」を設置するとともに、かっぱポータルサイトを立ち上げて定期的に広報会議を開催し、各広報媒体の役割分担に基づいた広報を実践していく
   ② いきもの情報の共有化を図り、主に生物多様性の保全を行っていくための活動を行う「生物多様性保全担当」を設置し、併せていきもの情報のインスタグラムなどからの情報発信を行っていくことを目ざす
5. 定例会の運営を改善していく
   ① 少数の参加者だけで意思決定している定例会への参加者を拡大し、多様な意見が反映できるようにしていく
   ② 定例会では、かっぱの会の中期的な戦略（主要な事業の次世代への継承や生物多様性の保全策など）の検討の他、北山わんぱくまつりを含めた個々のイベントの企画内容や、市や指定管理者など外部団体との調整事項の検討、予算管理、イベントへの参加者の調整などを行う
   ③ これまで定例会で実施していたスケジュール確認やかっぱ通信の掲載記事の検討

はかっぱポータルサイトを基に実施する広報会議の中で実施する

④　定例会の招集と進行役を代表以外の人にお願いし、各回の定例会には検討テーマに関係する人も参加する

⑤　持続可能なかっぱの会の検討会や懇親会、茶話会、イベント開催時のミーティングなどの開催を通して、会員からの意見の集約を目ざす　→定例会を含め、開催日時の設定を参加しやすい形に改める

■2025 年の活動予定

定例会や北山わんぱくまつり実行委員会の日程は別途、検討

通年　・定例川そうじ（3-12 月）
　　・外来生物捕獲作業（4-10 月）
　　・かっぱ通信の編集・発行作業（3，6，8，10，12 月）
　　・「北川・八国山・北山公園のいきもの」編集と掲示（3，5，7，9，11 月）
　　・定例会、北山わんぱくまつり実行委員会
１月　・北山小土曜講座（野鳥観察）＋一般向け野鳥観察会
　　・持続可能なかっぱの会の検討会
２月　・川端会議に参加
　　・持続可能なかっぱの会の検討会
　　・新河岸川流域川づくり連絡会に参加
　　・生物多様性事業連絡会に参加
３月　・北川かっぱの会総会
４月　・北山いきものクラブを開催
５月　・カエルの生息数調査
　　・北山いきものクラブを開催
　　・川端会議に参加
　　・北川クリーンアップ
　　・北山小土曜講座「ヤゴ救出作戦」を開催
６月　・身近な水環境の全国一斉調査に参加
　　・北山公園菖蒲まつりで北川水族館展示
　　・北山小土曜講座ホタル観察会
　　・北山小４年生の総合的学習（北川のゴミ拾い）
７月　・北山いきものクラブを開催
　　・北山小４年生の総合的学習（魚とり）を支援

・北山小土曜講座昆虫採取
8 月　・狭山三公園管理運営協議会
9 月　・川端会議に参加
・北山わんぱくまつり（仮置き）　→要検討
・北山小 4 年生の総合的学習（外来種）
10 月　・北山小土曜講座「トンボとりとヤゴいかだづくり」
・北山いきものクラブ
・外来生物慰霊祭
・NPO すずめとのコラボ企画「秋の里たいけん」
・北川クリーンアップ
12 月　・川でつながる発表会・交流会（新河岸川流域川づくり連絡会）
・狭山公園宅部池のかいぼり（実施に向けて調整中）

■2025 年予算案

・別添参照

■2025 年の執行体制

組織を持続可能な形で維持し、活動を続けていくためには、個々の会員が役割分担を担っていくことが必須。若い世代が担いきれないのであれば、早い段階から活動内容の縮小や改善を検討していく必要がある。

□2025 年の執行体制を検討するにあたって（メモ）

執行体制を変更し、最適な広報を目指して広報ツール全体をコントロールする「広報担当」と、いきもの情報の情報共有化を図り主に生物多様性の保全を行っていくための活動を行う「生物多様性保全担当」を設置し、併せていきもの情報のインスタグラムなどからの情報発信を行っていくことを目ざす

2024年		2025年	（備考）
代表	→	代表	
事務局長	→	事務局長	
会計	→	会計	
新規会員募集担当	廃止		
編集担当（かっぱ通信）		広報担当 （LINEやインスタを含む）	最適な広報を目指して広報ツール全体をコントロール
編集担当（HP、ブログ、FB）			
環境学習・調査担当		生物多様性保全担当	いきもの情報の情報共有化を図り、インスタなどからの情報発信にも活用
外来生物担当			
北山いきものクラブ担当			
水辺保全担当	→	水辺保全担当	
わんぱくまつり担当		わんぱくまつり担当	
イベント担当			
遊軍			
会計監査	→	会計監査	